

障がい者対策及び 胃がん検診について

林 昌子 議員

質問 前回6月定例会において、現在の老人福祉センター1建物、敷地400平方メートルを増設する地域活動支援センター「ホープ」の増設計画の報告をいただきました。現在、定数22名ですが、今後利用者の増加が見込まれることから、40名が利用できる作業スペースに拡大を図られることが、利用者の方々の強い要望でした。早期実現に向け邁進されることを期待し、進捗状況を伺います。

答弁（保健福祉部長） 用地測量の補正予算をいただき、8月20日に測量が完了し、その後、不動産調査報告書を水戸財務事務所に提出しました。土地購入は、平成25年度前半になり、そ

の後建物設計、建築となる見込みです。建物建設工事につきましては、平成26年度以降になると思います。土地については500平方メートル、駐車場については、東側に1か所設け、現在の場所にプラスし、2方向から出入りできるように考えています。

答弁（村長） 施設の増設については、先に図面を起すよりは、土地の取得が可能になった段階で進めるべきであると思います。今年度の中で、利用者の保護者の方たちの意見を取り入れ、設計も含め進めていきたいと思えます。

質問 国民2人に1人が発症し、3人に1人が死亡す

るといわれている「がん」、我が国における年間死亡者は30万人を超え、茨城県でもがんになった人は、年間1万1000人、その中で亡くなられた方は、7700人とデータが出ております。検診受診率を見ますと、大腸がん検診よりも胃がん検診受診率は、10%前後と少ないのが現状です。胃がん検診受診率を上げることにも加味した、胃がんの早期発見、早期治療のための、ピロリ菌ABCリスク検査の導入を提案いたします。

現在、東京都や埼玉県からスタートし、全国にこの検査が取り入れられております。茨城県では、牛久市、龍ヶ崎市が来年度から導入の準備をしております。近隣に先駆け、検査経費も削減し、医療費削減も見込まれる胃がん対策に力を入れたいと思います。

答弁（保健福祉部長） 美浦村の胃がん検診において

は、茨城県胃がん検診実施指針に基づいて、40歳以上の住民を対象に実施しております。また、婦人科検診を除いたがん検診は、集団検診として、茨城県総合検診協会に委託し、保健センターで実施をしております。美浦村として、胃がん検診の一時検診として推奨されている胃エックス線検診のさらなる受診率の向上に力を入れ、これに加え、ピロリ菌ABCリスク検査を組み合わせる方法、個別検診など、今後、検討していきたいと考えております。

答弁（村長） 60歳以上の方のほぼ95%がピロリ菌保有者である話も聞いております。牛久市と龍ヶ崎市が、ピロリ菌ABCリスク検査を今後取り入れていこうという話もあります。

美浦村としても、県内の状況を把握し、早めに取り入れられる体制を築いていきたいと思えます。